式典行事

開会のことば

中根隆文大分県漁業協同組合代表理事組合長の「開会のことば」で式典が始まりました。

大分県漁業協同組合代表理事組合長
中根　隆文

主催者あいさつ

全国豊かな海づくり大会会長
前衆議院議長
額賀　福志郎

天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、第43回全国豊かな海づくり大会が開催されるに当たり、主催者として一言御挨拶申し上げます。

はじめに、本年、全国各地で相次いだ地震、台風、豪雨などの自然災害に遭われた被災者の皆様へ心からお見舞い申し上げます。また、漁業関係者の方が生活されている沿岸部は、こうした自然災害の影響を受けやすく、それによる御苦難は察するに余りありますが、苦難を乗り越え、誇りを持って漁業活動に従事されている皆様に感謝申し上げます。

全国豊かな海づくり大会は、昭和56年に、ここ大分県から始まりました。広大な干潟を有する豊前海、深く入り組んだリアス海岸の豊後水道など、変化に富んだ好漁場から多種多様な水産物を生産するここ大分県において、43年ぶりに本大会を開催することができ、大変嬉しく思います。

我が国の水産業は、海洋環境の変化等による生産量の減少や就業者数の減少など、厳しい状況に直面しております。こうした中で、国としても科学的な知見に基づく資源管理等により、水産資源の維持・回復を図ることはもちろんですが、各地域においてもそれぞれの特色を生かした水産業の活性化を図ることが急務となっております。大分県におかれては、古くから地域物産のブランド化に熱心に取り組まれ、豊予海峡の「関あじ」、「関さば」、カボスを餌に混ぜて育てた「かぼすブリ」、「かぼすヒラメ」など、高級ブランド魚を世に出し、多くの人を魅了してきました。関係者の皆様の多大なる御努力に改めて敬意を表します。

また、県内において、新たな種苗生産施設が本年7月に完成し、閉鎖循環式システムや緑色LED光照射設備の新規導入により、生産能力を2割向上させたと伺いました。本日午後の放流行事では、この施設で育てられたマコガレイを放流いたします。

マコガレイは、海底から地下水が湧き、豊富な養分を含む日出沖では、肉厚の「城下かれい」に成長します。当地を訪れ、その味に感銘を受けた高浜虚子は、「海中に　真清水湧きて　魚育つ」との句を残しました。100年前の俳人も称賛した豊かな海を、次世代にしっかり継承できるよう、またその動きが全国に広がるよう、御臨席の皆様方の御尽力を切にお願いいたします。

結びに、本日栄えある表彰をお受けになる方々に対し、心より敬意を表しお慶びを申し上げますとともに、大会開催のため力を尽くしてこられた関係者の方々に厚く御礼を申し上げ、御挨拶といたします。

式典行事

主催者あいさつ

大分県知事
佐藤　樹一郎

本日、天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、「第43回全国豊かな海づくり大会～おんせん県おおいた大会～」を開催できますことは、私たち大分県民にとりまして、誠に光栄であり、この上ない喜びであります。

御来賓をはじめ、全国から御参加いただきました皆様を歓迎いたしますとともに、本日栄えある表彰を受けられる皆様に心からお祝い申し上げます。

本県は、豊予海峡を境として、北は瀬戸内海、南は太平洋の2つの海につながる豊後水道に面し、一本釣り漁業、小型底びき網漁業などの漁船漁業や、全国トップクラスの生産量を誇るブリ類やヒラメの養殖業など多様な漁業が盛んに営まれています。

また、九州本土最高峰の中岳を含むくじゅう連山や、県内各地で温泉が満喫できる、源泉数・湧出量ともに日本一の「おんせん県」であるなど、豊かな自然環境にも恵まれています。

全国豊かな海づくり大会の記念すべき第１回大会は、ここ大分県で開催されました。第１回大会の開催を契機に本県では種苗放流や小型魚の漁獲規制、県内一斉休漁日など「つくり育てる漁業」を積極的に実施し、40年以上が経過した現在も脈々と取組を続けています。一方で、新たな課題も生じています。水産資源の減少に加え、国内での水産物消費量の減少、そして海洋プラスチックごみなど世界的な環境問題です。

私たちは今大会のテーマを「つなぐバトン　豊かな海を　次世代へ」としました。

本大会を契機に、本県では新たな増殖モデルの導入による水産資源の増大や、多様化するマーケットや環境変化に対応した持続的な養殖産地づくりなど、「つくり育てる漁業」を一層進めてまいります。

さらに、水産物を食べて水産業を応援していくことや、森から川、海へとつながる自然環境を守り、活かしていく「これからの豊かな海づくり」を、県民総参加で取り組んでいくことで、先人から受け継いだこの恵み豊かな大分の海の「バトン」をしっかりと次世代へつなげてまいります。

結びに、天皇皇后両陛下の御健勝を心からお祈り申し上げますとともに、本日御参加の皆様の御多幸を祈念いたしまして、挨拶といたします。

歓迎のことば

大分市長
足立　信也

本日、ここに天皇皇后両陛下のご臨席を賜り、「第43回全国豊かな海づくり大会～おんせん県おおいた大会～」が大分市で開催されますことを、誠に光栄に存じますとともに、心から感謝申し上げます。

また、本大会にご参加いただきました皆様、ようこそ大分市へおいでくださいました。47万市民を代表して、歓迎を申し上げます。

さて、ここ大分市は、中世には戦国大名の大友宗麟により、海外との交易が積極的に進められ、南蛮文化がいち早く花開いた都市であり、日本で初めて西洋式外科手術が行われるなど、西洋医学や西洋音楽の発祥の地とされております。

ニホンザルの生息地として知られる「高崎山」や別府湾などの豊かな緑と海に囲まれ、九州と四国が最も接近する豊後水道の「速吸瀬戸（はやすいのせと）」では、「関あじ・関さば」をはじめ、多種多様な水産資源の宝庫となっております。

私たちは、これまで多くの恩恵を与えてくれた豊かな海を守るためにあらゆる努力を払い、次世代へと引き継いでまいりたいと存じます。

結びに、天皇皇后両陛下の益々のご健勝を心からお祈り申し上げるとともに、本日ご参加の皆様のご多幸を祈念いたしまして、歓迎の言葉といたします。

式典行事

天皇陛下のおことば

第43回全国豊かな海づくり大会が、ここ大分県で開催され、皆さんと共に出席できることをうれしく思います。

本大会は43年前、ここ大分県から始まりました。第１回大会は、「そだてよう　豊かな海を　ふるさとを」をテーマに、現在の佐伯市にある松浦漁港で開催され、これを契機として、これまで全国の多くの関係者により、漁業振興や自然環境の保全活動が積極的に行われてきました。

ここ大分でも、資源管理と一体となった栽培漁業や、ブリやヒラメなどを始めとした魚類や貝類の養殖業の振興のほか、ブランド化に早くから取り組み、全国でも有数の水産物の生産地となっています。こうした取組を、長年にわたり続けてこられた皆さんの努力に深く敬意を表します。

現在、大分県では、この豊かな海を次の世代に引き継いでいくため、最新の生産施設を導入し、漁場環境の整備と稚魚の育成に適した場所への集中放流を一体的に行うことで、より効果的な栽培漁業に取り組んでいると聞いています。また、養殖業では市場環境の変化に対応できる持続的な産地づくりを目指しているほか、水産物の消費拡大や、豊かな自然環境の保全活動など、県民の皆さんによる様々な取組が行われていると聞いています。

地球温暖化や海洋プラスチックごみの問題など、国際的な課題も生じている中で、漁業関係者の皆さんの御苦労も多いことと思います。

「つなぐバトン　豊かな海を　次世代へ」をテーマに、大会始まりの地で行われる今回の大会を契機として、全国各地において取り組まれてきた豊かな海づくりの活動に、皆さんの英知と努力を再び結集し、更に発展させていくことを期待します。そして、人々の海や水産業への関心と理解がより深まり、豊かな海づくりの輪が、ここ大分の地から全国へ、そして未来に向けて大きく広がっていくことを願い、私の挨拶といたします。

式典行事

表彰

功績団体表彰受賞者（栽培漁業部門、資源管理型漁業部門、漁場・環境保全部門）及び作品コンクール受賞者（作文、絵画、習字）の表彰式を行いました。

◎功績団体表彰受賞者代表

大会会長賞　　：大分県漁業協同組合別府湾地区４支店（大分・別府・杵築・日出）【栽培漁業部門】
農林水産大臣賞：赤須賀漁業協同組合（三重県）【栽培漁業部門】
環境大臣賞　　：銚子市漁業協同組合小型底曳部会（千葉県）【資源管理型漁業部門】
水産庁長官賞　：壱岐市磯焼け対策協議会（長崎県）【漁場・環境保全部門】

◎作品コンクール受賞者代表

大分県知事賞　：大分市立稙田中学校３年　前田　百花【絵画】

最優秀作文の発表

「ぼくたちの海をまもろう」 （全文はP73に掲載）

大分市立大道小学校２年
中園　瑛斗

式典行事

稚魚等のお手渡し

天皇皇后両陛下が稚魚等をお受け者にお手渡しされました。

【第１回お手渡し】

天皇陛下がイサキを大分県漁業協同組合鶴見地区漁業副運営委員長の神崎隆実さんに、皇后陛下がキジハタを大分県漁業協同組合東国東地区漁業運営委員長会会長の近乗美信さんにお手渡しされました。

【第2回お手渡し】

天皇陛下がカジメを大分県漁業協同組合保戸島地区漁業運営委員長の三木節夫さんに、皇后陛下がアサリを大分県漁業協同組合中津地区漁業運営委員長の田中浩二さんにお手渡しされました。

式典行事

お手渡し魚等

イサキ

主に豊後水道域で漁獲され、一本釣り漁業や定置網漁業などで漁獲されます。県内で年間およそ50万尾の種苗が放流されており、全長制限による資源管理の取り組みが行われています。

※写真提供：佐伯市

キジハタ

大分県の地方名では「アコウ」と呼ばれ、高級魚として扱われています。放流場所付近での定着性が強いことから、放流対象種として有望とされています。

※写真提供：佐伯市

カジメ

県内では「くろめ」と呼ばれ、食用として豊後水道北部域で漁獲されます。食害生物の除去や母藻設置などにより、県内各地でカジメをはじめとして海藻や海草の保全活動が行われています。近年、温室効果ガスの吸収源としてブルーカーボン生態系への注目が高まっています。

アサリ

潮干狩りの対象種として古くから親しまれ、1980年代には本県のアサリ漁獲量は日本一を誇っていました。1986年以降、本県のアサリ資源は大きく減少しており、資源回復に向けて各地で増殖活動が行われています。

お手渡し容器

お手渡し容器は、大分県の伝統的工芸品である別府竹細工を用いて、別府竹製品協同組合の皆様に制作していただきました。

別府竹細工には200種類以上の編み方があり、容器底部には、網み目が美しく、軽量で丈夫な「六ツ目編み」の技法を用いています。また、容器の蓋には、隙間なく竹を編み込み、精巧で頑丈な「六ツ目抜き」の技法を用いています。

イサキ

キジハタ

カジメ

アサリ